

複式学級編制時における対応について

現在、あずま北小学校において、別紙【東地区】学区内人口のとおり、早ければ令和 6 年度に 2、3 年生で複式学級を編制する見込みとなっております。

複式学級となる場合には直接指導と間接指導を組み合わせ、複数学年を教員が行き来しながら指導する必要がある場合が多いことから、以下のような課題も生じ得ることが指摘されています。

【課 題】

1. 教員に特別な指導技術が求められる
2. 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい
3. 単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある
4. 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる
5. 兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある

※公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(文部科学省)

【稲敷市の対策】

稲敷市では上記複式学級編制による課題を解消するため、市費により講師等を確保し、実質的な単式学級指導を実施する予定です。

また、あずま北小学校における複式学級編制に関しての児童や保護者の不安を軽減できるよう、定期的に意見交換会を行うなど適切な対策を実施していきます。